

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## 果樹カメムシ類の今後の発生について

8月上旬のヒノキ毬果の調査の結果、県内全体で果樹カメムシ類が早期に果樹園へ飛来する状況ではありませんが、一部地点では早期に果樹園へ飛来する可能性が高まっていると考えられます。

については、下記事項を参考に防除対策を行うよう生産者への指導をお願いします。



チャバネアオカメムシ

### 記

#### 1. 発生概況

##### 1) ヒノキ毬果における果樹カメムシ類の寄生数調査

8月上旬(8月5~7日)に県内15地点で行った調査では、本虫のヒノキ毬果での寄生成幼虫数の平均は22.6頭/5枝であった。この値は平年(12.4頭/5枝)よりも多く、7月下旬(7月16~22日)調査時から急増し、寄生数が多い地点が認められている(図1)。

寄生数が多い地点では、幼虫(中齢中心)が多く、今後成虫の発生が多くなると考えられる。

##### 2) ヒノキ毬果の口針鞘(吸汁跡)数調査

上記と同時に行った調査において、ヒノキ毬果1果当たりの本虫による口針鞘数の平均は6.4本/果と平年(7.3本/果)並であり、早急にヒノキ毬果から離脱する状況ではない。ただし、この値は地点によってばらつきが大きく、一部では7月下旬から急増し、本虫がヒノキから離脱する際の目安となる25本/果に近づいている(図2)。

( ヒノキ毬果における口針鞘数が1果当たり25本を超えると、果樹カメムシ類がヒノキ毬果より離脱する傾向にあるとされている。 )

これらのことから、現在県内の多くの地点では、果樹カメムシ類が早急に果樹園へ飛来する可能性は小さいと考えられる。ただし、ヒノキ毬果上での増殖が進み、今後成虫の発生量が多くなる可能性がある。また、一部地点では果樹カメムシ類のヒノキ毬果からの離脱が近づいており、早期に圃場に飛来する恐れがある。

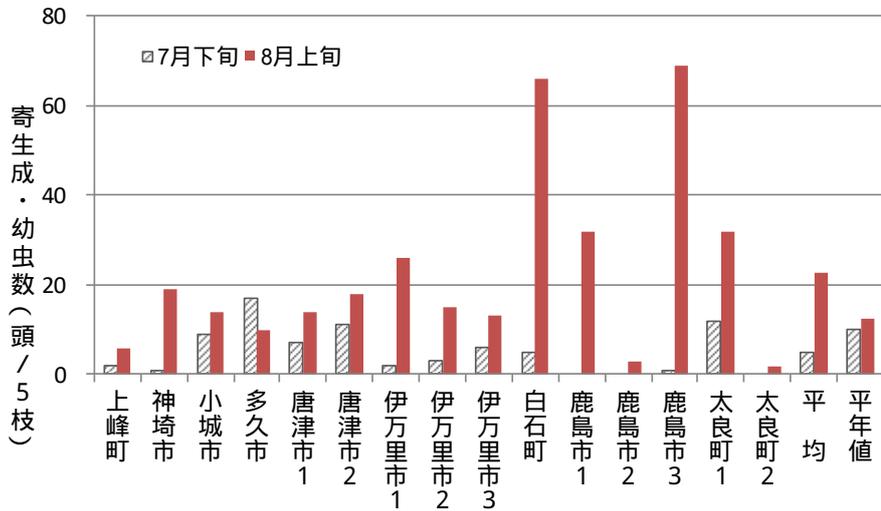


図1 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類の寄生数の推移

注)ヒノキ毬果における寄生虫数、口針鞘数は地形等により差が大きいため、各地点の調査結果が必ずしも当該地域全体の状況を示すものではない。

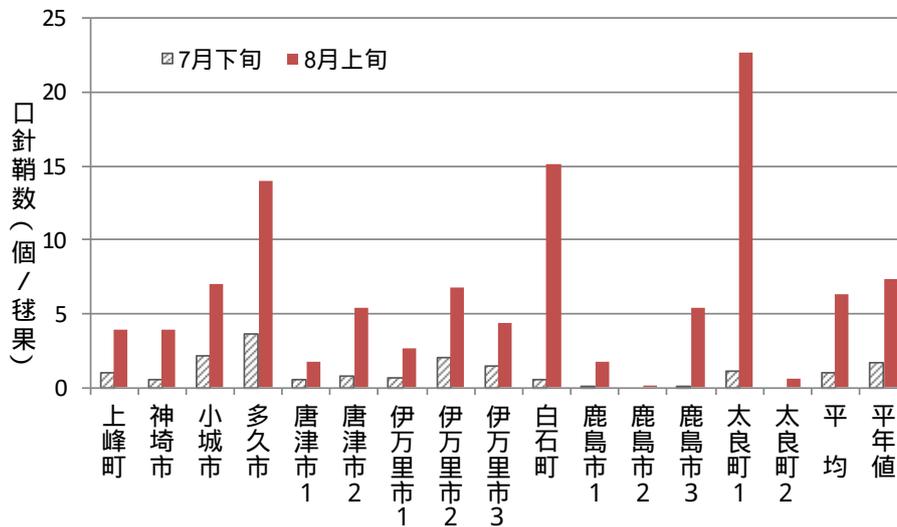


図2 ヒノキ毬果における口針鞘数の推移

注)ヒノキ毬果における寄生虫数、口針鞘数は地形等により差が大きいため、各地点の調査結果が必ずしも当該地域全体の状況を示すものではない。

## 2. 防除対策

- 1)果樹カメムシ類の圃場への飛来は地域や園により大きく異なるため、園内をこまめに見回り、果樹カメムシ類の発生を認めた場合には早急に防除を行う。
- 2)薬剤防除は広範囲を一斉に行うと効果的であるため、地域全体で防除を行う。
- 3)薬剤散布の際は、周辺作物への飛散を防止するとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の安全使用基準を遵守する。
- 4)施設栽培では、開口部に防虫ネット(4ミ目以下)を設置する。
- 5)今後の発生状況については、農業技術防除センターが発表する果樹カメムシ類に関する情報を参考にする([http://www.pref.saga.lg.jp/ki\\_ji00368010/index.html](http://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00368010/index.html))。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
 〒840 2205 佐賀市川副町南里1088  
 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5085